

浜田市世界こども美術館での活動例1「謎なぞ美術館へようこそ」

(1) 第1次 鑑賞

題材名 「謎なぞ美術館へようこそ」

ア、題材のねらい

- ・興味深く見ることができるように工夫された作品にふれあうことにより、造形作品に関心や親しみを持つ。

イ、題材の評価規準

- ・美術館の作品を見たり、なぞなぞ形式で作品に関わったりして、表し方のおもしろさや工夫に関心を持つ。(ア関心・意欲・態度)
- ・作品について驚いたことや感心したことや好きなどところを見つけたり話したりする。(エ鑑賞の能力)

ウ、実践対象と日程

第1学年児童9名・第2学年児童10名

平成17年5月18日(水) 11:00~12:00

エ、実践に当たって


- ・学習指導要領において、鑑賞指導の充実が述べられている。「児童の発達や地域の実態に応じて、すべての学年で独立して指導できるようにする。また、地域の美術館などを利用することを明示する。」とあり、積極的に美術館との連携を図ることで、生涯にわたり美術鑑賞を愛好していく基礎を育てることが求められている。
- ・今回美術館に展示された約50点の現代美術作品は、本物そっくりな絵画や彫刻、意外な素材を使った立体作品など、従来の美術表現の枠にとらわれず、新しい感覚で多様な表現を試みた作品ばかりである。なぞなぞを解きながら進む楽しい形式で作品に向き合い、「アートっておもしろい」と感じることで鑑賞への関心や造形活動への関心も高まると考える。
- ・2年生の子どもたちは1年生のとき1回美術館に出かけて鑑賞と活動をしている。1年生は初めてである。
- ・教師が、事前に美術館に出かけ学芸員さんと綿密な打ち合わせをし、じっくり作品鑑賞をしてから臨むように心がける。

オ、学習活動の展開(1時間)

時間	主な学習活動	評価規準(評価方法)	教師の支援
10分	・作品鑑賞のマナーを知る。 ・マナーを守れば自由な感じ方いろいろな感じ方を	関：作品を見ることに期待を持ち、大切に見る気持ちを持つ。 (発言・表情)	・珍しい作品やおもしろい作品がたくさんあることを

	してよいことを知る。		伝え、意欲付けをする。
50分	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの場所で学芸員さんの話をなぞなぞ形式で楽しく聞く。 ・ほかの場所では自由な気持ちで作品を鑑賞する。 	関：興味を持って作品を見たり、謎解きに参加したりする。(発言・行動・表情)	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に話に耳を傾けて鑑賞に浸り、児童の率直な驚きやつぶやきを大切に受け止めるようにする。
20分	<ul style="list-style-type: none"> ・帰ってから、振り返って感想を書く。 	鑑：作品を見て楽しかったことや好きなところを見つけることができたか。(用紙・発言)	<ul style="list-style-type: none"> ・工夫やおもしろさに気づいた発言を全体に広げる。

カ、活動の様子

<p>1. 鑑賞の仕方を聞く。</p> <p>2. 鑑賞する。</p>  <p>3. 感想を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いて、期待を持って聞いていた。 ・世界の児童の絵を見て「色がきれい」とつぶやく。 ・陶器の新聞紙を見て「えー、偽物?」「鉄?プラスチック?」「かたいんだ。」と驚く。 ・木で作った本物そっくりな瓶や鞆を見て「たまげた。」「開けないの?」 ・折り紙の折り方で光が当たると顔のシルエットが出る作品を見て「全部人の顔?」「これは子どもかな?」「鼻が違うんだね。」 ・こすりだし作品を見て「クレジットカードの数字だ。見たことあるよ。」「やったことないよ。」 ・ブーツの足跡で人の顔ができているのを見て「すごい。」「自分で踏んでどうやって顔になるんだろう。」「外国の人の顔だね。」「これは感じが違うね。歯が見えている。」「いっぱい踏みしめてある。」 ・指や足のスタンプを使って描いた絵を見て「指のここを使ってるの?」「葉っぱみたい。」「あっ、つるだ。」「足で描いてある。」 <p>作品ごとにたくさんのつぶやきが聞こえた。意外な作り方に素直な驚きの声があがった。クイズ形式で回るのも楽しめた様子。</p> <p>S児…見る時おもしろい絵があったよ。靴で作った顔がすごいと思ったよ。新聞もすごいと思ったよ。木でバックを作るってすごいと思ったよ。全体がすごいと思ったよ。昨日はすごいすごいと思ったよ。とってもおもしろかったよ。</p> <p>H児…美術館で絵を見るのがあって、足跡で描いたのがす</p>
---	---

ごくで、こういう絵もあることが分かりました。折り紙をちょっと折って顔も作っていてすごいなと思いました。
(感想用紙より)

キ、考察

- ・多様な表現の仕方の作品を見て、新鮮な驚きを持ち、これは何からできているんだろうと考えながら関心を持って回ることができた。
- ・たくさんのつぶやきが聞こえてきたので、教師は子どもたちの反応をメモにとって記録したり、一緒に「ほんとだ。○○に見えるね。」と共感したりするよう努めた。1つの作品から子どもたちは想像をふくらませ、様々な感じ方や発見をしていることが分かった。
- ・学習をしたことが授業や生活に生きてくることを願って取り組んでいるが、後日図工の時間にこすり出しをした時、「美術館でもこすり出しの作品があったね。」と言いながら手を動かしていた子、「こんな花があったらいいな」という想像の絵を描いた時、指や手を使って描くことを試していた子がいた。心のどこかに残っていてふっと思い出して作品作りに取り入れているんだなと感じた。美術館から家族でもう1度訪れてほしいと券をいただき、再訪した子どももいた。美術館に行くのが楽しい子どもが増えていってほしいと思う。
- ・子どもたちの感想の中に「すごい」という言葉が何度も出てきた。同じ「すごい」でも違いがあったと思うので、一人一人に気持ちを聞いてどんな「すごい」か引き出すことができればよかったと反省している。この積み重ねをしていくことで学年が上がると次第に自分の言葉で表現できるようになっていくと考える。